

## 第2期 事業計画書

期間：令和2年11月1日～令和3年10月31日

### 1 概要

第1期は設立事業年度であったが、直後に新型コロナウイルス感染症が急拡大し、飲食・観光業が大打撃を受けた。このため、広告出稿などの営業も難しくなり、メイン事業である「とことこシリーズ」の赤字がさらに拡大する結果となった。

しかし、メディアとしての認知、必要性は高まっており、それは2020年9月に開始した第2弾メディア「備後ととことこ」の立ち上げが順調であることから読みとれる。

2期目となる今期も新型コロナウイルス感染症の影響は続いており、広告収入の大幅増加は見込めないが、主に以下2点の施策を行いながら財務体制の改善に取り組んでいく。

- ・ メディア事業の支出抑止（外注費用の適正化）
- ・ 利益率の高いICTサポート、HP制作作業の受注強化

### 2 新規事業

#### とことこライター塾（担当理事：岡本）

2021年2月から、一般社団法人高梁川流域学校からの委託事業として開催する「ライター塾」を、単独事業含めて今期は複数回実施すると同時に、動画コンテンツとして販売する仕組みを作る。

販売は今期作成した「はれとこウェブショップ」を活用し、とことこシリーズでライターデビューできる可能性を見せることで「学ぶだけでないライター塾」と位置付けて売り込む。

#### 【実施可否判断】広告戦略と寄付募集（担当理事：村上）

2020年12月よりTechSoup Japanに登録し、非営利団体向けのソフトウェア寄贈プログラムが利用可能となった。

この中にGoogle Ad GrantsというGoogle広告が月10000米ドル分助成されるプログラムがあり、実施検証を行っている。さらにはれとこで寄付募集のランディングページを制作し、広告効果と寄付金の動きを検証する。地域系団体には非営利団体が多く、ノウハウを収集することで、地域団体を支援すると同時にサポート作業で収益化できる可能性がある。

### 【実施可否判断】高梁川とことこ（担当理事：戸井）

前期から一般社団法人高梁川流域学校より打診を受けている案件だが、今期は実施可否の判断を行う。最大の課題は費用（ランニングコストの負担増）。

前期にリリースした第2弾メディア「備後とことこ」をトライアルと位置付けており、HP制作などインフラ整備は制作期間・費用含めて検証済（期間は1ヶ月、30万円で構築可能）。しかし、ランニングコストは、財務体質の改善が急務で現状では厳しいと考えている。

- ・ 少なくとも2年分のランニングコスト（約300万円）を調達
  - ※「広報としての」クラウドファンディングを活用も検討
- ・ 対象エリア（新見・高梁・総社・早島・矢掛・井原・浅口・里庄）のエリアマネージャーとなる人材発掘（将来ははれとこの理事に）

これらを満たせばリリース可能。

## 2 実施する事業（既存）

既存事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で休止していたものを含め、全て再開し売上増を図る。

### メディア事業

#### 【とことこシリーズ】

倉敷とことこ・備後とことこの既存メディア事業は、前期に引き続き継続する。

ただし、今期は経費削減の意味もあり記事数を抑制。1ヶ月で公開する記事数は「1メディア10記事程度」とし、数を追わない方針で運営する。

同時に、新規事業として実施する「とことこライター塾」から新規ライターを発掘し、「高梁川とことこ」のリリースに備える体制作りを行う。

合わせて前期強化した、Yahoo!など外部メディア提携は継続実施する。Gunosyなど新規提携メディアを増やし「メディアとしての格」を向上。瀬戸内海放送が運営する「ほ・とせなNEWS」の提携戦略を参考としながら推進する。

#### 【イベント運営】

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年は自粛していたイベント開催は2021年から再開する。メインとなる「岡山ブログカレッジ」を皮切りに、「備後ブロガー会」、「岡山スマホユーザー会」も世相をみつつ通常運営に戻して行く方針。

特に岡山ブログカレッジは、高梁川流域学校の連携事業として「情報発信を学ぶセミナー」と位置付け、従来のコミュニティ色を薄め、セミナーメインのイベントとして再構築。収益化を図る。

## 受託事業

今期は期首時点で、倉敷観光コンベンションビューローより約 150 万円の観光ポスター制作、岡山 NPO センターより約 70 万円の HP 制作を受託しており、受託事業は大幅増が見込まれる。HP 制作については、地域の飲食店などから問い合わせも増えており、20 万円程度の低予算案件を効率良くこなす体制をつくり、売上増を図る。

しかし、受託事業は外注比率が高いため、代表理事戸井のシステムエンジニア業を核に、簡易なシステム導入作業なども拡大していく。

## ストック事業

HP 制作、システム導入作業は外注比率高めの作業となるため、メンテナンスなど保守作業を受託しストック化を図る。保守作業はマニュアル化を進め、内部（当面は常勤の理事）で対応できる体制を構築。数が増えた場合は、専任の外注または職員の採用を検討する。

## 非営利事業

児童養護施設への PC・スマホ貸与は、要望がでてくれば随時対応する。同時に前期アドバイザー契約を締結した倉敷市社会福祉協議会との連携を強化し、PC・スマホを必要とする個人・団体を支援するプログラムを検討する。

本事業ははれとこ単独では難しいため、PC・スマホを貸与してくれる「ピープルソフトウェア株式会社」との提携を深めるとともに、とことこを活用して広報することで、活動に賛同する IT 企業を徐々に増やして行く。

## 3 定款変更

将来「とことこシリーズ」が増えることを見越して、今期中に定款変更を行う。以下の内容を変更する予定。

- 理事の人数制限（3 名以上 5 名以内）を「3 名以上」に変更  
※エリア毎の責任者（エリアマネージャー）は、理事に就任してもらう予定のため
- 賛助会員の仕組みを追加で導入（とことこプラットフォーム事業を利用する会費の位置付け）
- 基金制度の追加

## 3 役員等

代表理事 戸井健吾 以下、理事 4 名、監事 1 名

以上。